

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	梅花女子大学
設置者名	学校法人梅花学園 理事長 小川友次

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文化表現学部	国際英語学科	夜・通信	8	—	6	14	13	
	日本文化学科	夜・通信			6	14	13	
	情報メディア学科	夜・通信			10	18	13	
心理こども学部	こども教育学科	夜・通信		—	6	14	13	
	心理学科	夜・通信			8	16	13	
食文化学部	食文化学科	夜・通信		—	8	16	13	
	管理栄養学科	夜・通信			8	16	13	
看護保健学部	看護学科	夜・通信		6	—	10	16	13
	口腔保健学科	夜・通信	10			16	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

シラバスの Web 公表 (https://www.baika.ac.jp/disclosure/syllabus/)
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	梅花女子大学
設置者名	学校法人梅花学園 理事長 小川友次

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.baika.ac.jp/disclosure/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	・私立大学部長 ・私立大学常務理事 ・医療法人顧問 ・株式会社顧問 ・社会福祉法人委員	2024.4.1～ 2028.3.31	私学における 協力関係
非常勤	・株式会社代表取締役	2021.4.1～ 2025.3.31	産学連携 (ICT)
非常勤	・私立大学法人(同法人) 同窓会長	2023.6.1～ 2025.5.31	同窓会及び 卒業生との連携
非常勤	・株式会社取締役会長 ・株式会社代表取締役 社長	2021.6.1～ 2025.5.31	産学連携 (芸術分野)
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	梅花女子大学
設置者名	学校法人梅花学園 理事長 小川友次

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスの作成・公表過程は以下の通り。</p> <p>(11月中旬) 各教員へシラバス作成について依頼。</p> <p>(12月初旬～1月初旬) シラバス入稿期間。</p> <p>(1月中旬～) シラバスの内容確認を各学科長により実施。</p> <p>(2月初旬) シラバス確認 (2回目)</p> <p>(3月下旬) シラバスを Web (大学 HP・学内向けポータルサイト https://www.baika.ac.jp/disclosure/syllabus/) にて公表</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.baika.ac.jp/disclosure/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業計画に記載された「成績評価方法・基準」では、「期末テスト 50%」「レポート 30%」「授業への取り組み姿勢 20%」などとすべての科目で、項目ごとに成績配分をパーセント表記して学生へ公表している。</p> <p>各教員はこれに基づき厳正に評価しているが、学生から評価に疑義が生じたときは「成績確認申請」ができる仕組みも取り入れており、透明性を確保している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GPAの設定 グレード・ポイント GP:4(100-90点)、GP:3(89-80点)、GP:2(79-70点)、GP:1(69-60点)、GP:0(59-0,失格)として算出する。 <p>算出方法は、</p> $\text{GPA} = \frac{(\text{履修登録科目のグレード・ポイント} \times \text{単位数})\text{の総和}}{\text{履修登録科目の単位数の総和(不可および失格の科目を含む)}}$ <p>履修した卒業要件に含まれる授業科目の「通算(累積)GPA」と学期ごとの「学期GPA」を算出し、成績通知票に記載し、教務Webシステムの成績照会にも表示。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GPA制度の公表：大学HPで公開している「大学要覧」に記載。 ・成績分布状況の把握：学期ごとに教務部が全学部・学科・学年ごとのGPA平均資料を作成し、各学科教務委員を通じて学科へ通知しており、他学科との比較ができるようにしている。 	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>大学HPの情報公開「大学要覧」のP.84、85にて公開。 https://www.baika.ac.jp/assets/pdf/disclosure/youran_u.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学としての学位授与の方針(ディプロマポリシー)を、以下のように策定し、大学HPで公表している。 <p>梅花女子大学は、建学の精神および教学の理念に基づき、次に掲げる能力を有し、かつ各学部学科の学位授与方針に定める基準に達して所定の卒業要件を満たした者に、卒業を認定し、学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) キリスト教精神に基づき、隣人を愛し他者を思いやることを備え、社会の発展と文化の向上に貢献する力。 (2) 多様な価値観を認めて、隣人とコミュニケーションを深め、連携・協働する力。 (3) 専門的な知識・技能を修得するとともに、主体性や思考力、実践力などを身につけ、新たな課題を発見し解決する力。 <ul style="list-style-type: none"> ・卒業に必要な要件については、分野ごとの最低修得単位数および総単位数(124単位※看護学科は126単位)が決められ、大学要覧で公開している。カリキュラムはディプロマポリシーを実施するために定められたカリキュラムポリシーに則って作成されており、学生が卒業要件単位数を満たすことでディプロマポリシーが適切に実施されるようなくみである。卒業認定は、卒業要件単位に基づき、教務委員会・部長会・教授会で審議され決定される。 	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>大学HPの「3つの教育方針」のディプロマポリシーで公開。 https://www.baika.ac.jp/aboutus/education_policy/diploma.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	梅花女子大学
設置者名	学校法人梅花学園 理事長 小川友次

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.baika.ac.jp/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	https://www.baika.ac.jp/disclosure/
財産目録	https://www.baika.ac.jp/disclosure/
事業報告書	https://www.baika.ac.jp/disclosure/
監事による監査報告(書)	https://www.baika.ac.jp/disclosure/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.baika.ac.jp/aboutus/evaluation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文化表現学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.baika.ac.jp/assets/pdf/disclosure/gakusoku_women.pdf) (概要) 梅花女子大学は、キリスト教精神に基づいて人格の形成に努め、教育基本法および学校教育法に従い、深く専門の学芸を教授研究するとともに、国際社会の発展と文化の向上に寄与する人間性豊かな女性を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.baika.ac.jp/aboutus/education_policy/diploma.html) (概要) 梅花女子大学は、建学の精神および教学の理念に基づき、次に掲げる能力を有し、かつ各学部学科の学位授与方針に定める基準に達して所定の卒業要件を満たした者に、学士の学位を授与する。 1. キリスト教精神に基づき、隣人を愛し他者を思いやることを備え、社会の発展と文化の向上に貢献する力。 2. 多様な価値観を認めて、隣人とコミュニケーションを深め、連携・協働する力。 3. 専門的な知識・技能を修得するとともに、主体性や思考力、実践力などを身につけ、新たな課題を発見し解決する力。 文化表現学部では、自分たちの置かれている社会の多様な文化のあり方を見つめ、社会に対して自分自身の思考や感性を表現していく力を育むために各学科が定めたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。 1. 各学科の専門分野における基礎的な知識を持ち、その分野を広く見渡せる力。 2. 各学科の特性に合ったそれぞれの方法で新たな文化を創造し、社会に貢献する力。 3. 自ら行った研究の内容を論文や創作などの形にまとめ、主体的に表現する力。 (国際英語学科) 学科が定めたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。 1. 英語を「話す」、「聴く」、「読む」、「書く」ための基礎的な力。 2. 英語圏を中心とする異文化を理解する力。 3. グローバルな視野から物事を考える力。 4. 英語を使用する現場で、身につけた知識に基づき英語を適切に運用する力。 (日本文化学科) 学科が定めたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。 1. 歴史や文学、日本語や日本文化についての知識・観察力・調査力・問題発見解決力・論理的思考力。 2. 日本語を中心とするコミュニケーション力・表現力。 3. 国語や書道を教授できる知識・技術・指導力。 (情報メディア学科) 学科が定めたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。 1. 情報メディアを駆使して、新たな文化を創造できる力。 2. 情報をグローバルに把握し、情報発信の担い手として社会に貢献できる力。

<p>3. 情報メディアを活用した事務処理能力を備え、社会に貢献できる力。</p> <p>4. 社会のトレンドに鋭敏な感性を持ち、豊かな個性を表現し発信できる力。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.baika.ac.jp/aboutus/education_policy/curriculum.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>梅花女子大学は、学位授与の方針に掲げる能力や資質を涵養するとともに、学生の能力を最大限に引き出し、自らの将来を切り拓く力を育成するために、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い視野と豊かな人間性を育み、知性と品性を備え、社会で活躍できる女性となるための基礎的な力を身につけることを目的として、「共通教育科目」にキリスト教科目、キャリア基礎科目、グローバルコミュニケーション科目、教養科目を置く。 2. 各学部学科の「専門教育科目」は、学生が専門的な知識や技能を修得するとともに、主体性や、思考力、実践力、課題発見・解決力などの育成を通して、学生が社会的に自立し活躍できる力を身につけることを目的として編成する。 3. より広い知識と教養を身につけるために、他学部他学科の科目や他大学の科目を履修することができ、さらにはグローバルな視野を養うために海外の協定大学での学習の機会を設ける。 <p>文化表現学部では、多様な文化のあり方を主体的に探求するとともに、その成果を各学科の特性に合わせた様々な方法で表現・発信する能力を身につけるよう、次の実施方針に基づきカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主専攻科目には、基本科目と発展科目を置く。 2. 基本科目には、各学科の学びの基礎的または包括的な内容の科目を置く。 3. 発展科目には、各専攻の専門性を高め学科の特性を生かした人材育成のための科目を置く。 <p>(国際英語学科)</p> <p>英語および英語圏の文化に関する知識や経験に加え、実社会で必要とされる能力を持った人材を育成するため、次の実施方針に基づきカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学科の主専攻科目には、英語を「話す」、「聴く」、「読む」、「書く」ための基礎的な力を高めるための科目を置く。 2. 海外実習を円滑かつ効果的に実施するために英語の実践的な運用と異文化理解を深めるための科目を置く。 3. 「ネイティブイングリッシュ専攻」には、国際社会への理解を深め、実践的な英語力やコミュニケーション力を身につけるための科目を置く。 4. 「観光エアライン専攻」には、観光・エアライン業界への理解を深め、ビジネスやホスピタリティに関する知識と実践能力を身につけるための科目を置く。 5. 「国際ビューティスペシャリスト専攻」には、多様な美的価値観への理解を深め、実践的なスキルと美の理念を学ぶための科目を置く。 6. 以上の科目に加え、3年次の演習、4年次の卒業演習、および英語の学習や異文化理解を深めるための科目を置く。 <p>(日本文化学科)</p> <p>日本の歴史や文学、日本語を基礎として、論理的な思考と多様な表現力を備えて、社会に貢献できる人材を育成するため、次の実施方針に基づきカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「歴史・観光学専攻」には、主に日本の歴史や日本文化に関する幅広い知識を身につけ、観察力・調査力・問題発見解決力・論理的思考力を育成する科目を置く。 2. 「文学・国語教員・図書館司書専攻」には、日本文学に関する幅広い知識を身につけ、日本語の文章表現力を育成する科目や、国語を教授できる知識・技術・指導力を育成する科目を置く。 3. 「書道芸術専攻」には、書道の技術を高めるとともに、書道を教授できる知識・技

術・指導力を育成する科目を置く。

4. 各専攻には、主専攻科目を集中して学ぶことができるだけでなく、他の専攻の科目を組み合わせて学ぶことで、内容を充実することができるように科目を置く。

(情報メディア学科)

情報メディアに対する基本的な知識と技能を基盤に、多様な分野の学びを通して情報社会の発展に貢献できる人材を育成するため、次の実施方針に基づきカリキュラムを編成する。

1. 情報メディアに関連した幅広い分野で活躍する人材を育成するために、「デジタルデザイン専攻」「マスコミ・パフォーマンス専攻」「ファッションビジネス専攻」「医療事務・図書館司書専攻」の4専攻を設置する。
2. 学科の主専攻科目は基本科目と発展科目から構成され、基本科目には情報メディアおよび各専攻に関連した基礎的または包括的な内容の講義と演習科目を、発展科目には各専攻の専門性を高めるための科目を配置する。
3. 1・2年生は基本科目を中心とした履修により情報リテラシーを学び、2・3年生では発展科目で専門的な知識と技能を習得する。そして4年生は、卒業演習・制作で自身の学習研究の成果を総括する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.baika.ac.jp/aboutus/education_policy/admission.html)

(概要)

梅花女子大学は、キリスト教精神に基づき、隣人を愛し他者を思いやることを備え、積極的に社会に貢献しようとする自立した女性の育成をめざしています。入学者受け入れにおいては、この建学の精神に理解を示し何事にも積極的に取り組むチャレンジ精神に溢れ、学位授与の方針に謳われた学修目標を実現し、社会に貢献しようとする意欲ある学生を求めています。入学者選抜の方針は以下のとおりです。

1. 多様な能力および個性をもった学生を受け入れ、互いに尊重し合い、互いに高め合う教育環境を通して、様々な社会分野で活躍、貢献できる女性を育むために複数の入学者選抜を実施します。
2. 入学者選抜方法には、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を設けます。
3. 上記の入学者選抜方法においては、学力試験の他、面接、小論文、高等学校における調査書および課外活動などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

文化表現学部では、文学、歴史、文化、創作、教育、言語、コミュニケーション、情報、メディア等におわたる幅広い領域について研究し、教育が行われています。入学者受け入れにおいては、各学科の特性を理解し主体的に学び自ら探求して得たものを表現していく意欲のある学生を求め、選抜を行います。各学科の学びの基礎となる基本的な知識については、各学科のアドミッションポリシーに掲げられた教科を十分に学習しておいてください。

1. 本学部では、幅広い視野と教養を身につけ、専門教育で培った能力をそれぞれに合った方法で発揮し、その成果を創造的に発信していく意欲を持った学生を求めています。
2. 各学科の学びの基礎となる教科だけでなくその背景にある知識・教養を身につけるため、関連する教科も十分に勉強しておいてください。
3. 筆記試験においては基礎知識と読解力、小論文では読解力と文章力、面接では高等学校までに積極的に行った学習やその他の課外活動について適切に表現する力を評価します。

(国際英語学科)

学科の特質にしたがって、次のような能力・意欲を持った学生を求め選抜を行います。

1. 本学科は、英語を「話す」「聴く」「読む」「書く」ための基礎的な力を伸ばすとともに、異文化を理解する力、グローバルな視野、そして英語を実際に運用する力を身につけようという意欲に満ちた学生を求めています。
2. 英語で表現される内容は幅広い教養を必要とするため、英語だけでなく国語、地理歴

史、公民などの教科も十分に学習しておいてください。

3. 筆記試験においては読解力、小論文では読解力と文章力、面接では、高等学校までに積極的にかかわった学習やその他の課外活動について自分から積極的にアピールする力を高く評価します。

(日本文化学科)

学科の特質にしたがって、次のような能力・意欲を持った学生を求め選抜を行います。

1. 本学科は、国際的な視野に立ち、自らの思いや考えなどを積極的に社会に発信していく意欲を持った学生や国語・書道教育を志す学生を求めています。
2. 学科の学びの基礎として日本語や日本文学、日本の歴史や文化の知識・教養を重視するので、入学前からこれらに関連する教科を十分に学習しておいてください。
3. 筆記試験においては漢字や語彙の基礎知識や読解力、小論文では読解力と文章力、面接では高等学校までにかかわった学習や活動について適切に説明できる力を高く評価します。

(情報メディア学科)

学科の特質にしたがって、次のような能力・意欲を持った学生を求め選抜を行います。

1. 本学科では、多様化するメディアとそれを取り巻く社会環境に関心と探究心を持ち、各種メディアを通じた社会活動に自分の能力を活かしたいと思っている学生を求めています。
2. 授業では、情報やメディアの知識と理解力が必要となるので、入学前から情報関連科目を十分に学習しておいてください。また、情報と社会との関わりを理解するためには幅広い知識が要求されるので、国語・英語・公民などの教科もしっかり学習しておくことが望ましいと考えています。
3. 筆記試験においては基礎知識と読解力、小論文では論理的思考力と文章力、面接では高等学校までにかかわった学習やその他の課外活動について適切に表現する力を高く評価します。

学部等名 心理こども学部

教育研究上の目的

(公表方法：https://www.baika.ac.jp/assets/pdf/disclosure/gakusoku_women.pdf)

(概要)

梅花女子大学は、キリスト教精神に基づいて人格の形成に努め、教育基本法および学校教育法に従い、深く専門の学芸を教授研究するとともに、国際社会の発展と文化の向上に寄与する人間性豊かな女性を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：https://www.baika.ac.jp/aboutus/education_policy/diploma.html)

(概要)

梅花女子大学は、建学の精神および教学の理念に基づき、次に掲げる能力を有し、かつ各学部学科の学位授与方針に定める基準に達して所定の卒業要件を満たした者に、学士の学位を授与する。

1. キリスト教精神に基づき、隣人を愛し他者を思いやることを備え、社会の発展と文化の向上に貢献する力。
2. 多様な価値観を認めて、隣人とコミュニケーションを深め、連携・協働する力。
3. 専門的な知識・技能を修得するとともに、主体性や思考力、実践力などを身につけ、新たな課題を発見し解決する力。

心理こども学部では、子育てや心の悩みを抱えている人々の幸せを願って、子育て支援や教育に関する実践力や心理的なサポート力を育むために各学科が定めたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 各学科の専門知識を活かし、広く応用できる力。
2. 各学科の専門性を活かし、それぞれの方法で社会に貢献する力。

3. 各学科の基礎知識や専門知識を基に主体的に研究する力。

(こども教育学科)

学科が定めたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 小学校教諭、幼稚園教諭、保育士としての知識、技術、倫理を修得し、児童教育、幼児教育、保育の現場で実践する力。
2. こどもと保護者、さらにはこどもを取り巻く地域社会におけるさまざまな問題を発見し、解決する力。
3. こどもや保護者との適切な関わりと信頼関係の構築、関係機関との協働関係を築くためのコミュニケーション能力。
4. 小学校教諭、幼稚園教諭、保育士としての総合的な表現力。
5. こども音楽療法についての理解と基礎的な力。
6. 児童文学と絵本についての理解と、伝達の基礎的な力。

(心理学科)

学科が定めたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 心理的援助の現場において、人の心を癒し、支える力。
2. 一般企業での実務に役立つコミュニケーション力や思考力。
3. 様々な障がいのある児童・生徒を教育する力。
4. 動物に関わる現場で心理学の知識や技術を適切に運用する力。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.baika.ac.jp/aboutus/education_policy/curriculum.html)

(概要)

梅花女子大学は、学位授与の方針に掲げる能力や資質を涵養するとともに、学生の能力を最大限に引き出し、自らの将来を切り拓く力を育成するために、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。

1. 幅広い視野と豊かな人間性を育み、知性と品性を備え、社会で活躍できる女性となるための基礎的な力を身につけることを目的として、「共通教育科目」にキリスト教科目、キャリア基礎科目、グローバルコミュニケーション科目、教養科目を置く。
2. 各学部学科の「専門教育科目」は、学生が専門的な知識や技能を修得するとともに、主体性や、思考力、実践力、課題発見・解決力などの育成を通して、学生が社会的に自立し活躍できる力を身につけることを目的として編成する。
3. より広い知識と教養を身につけるために、他学部他学科の科目や他大学の科目を履修することができ、さらにはグローバルな視野を養うために海外の協定大学での学習の機会を設ける。

心理こども学部では、多様な分野の学びを通して、各学科の特性に合わせた様々な方法で社会貢献する能力を有するよう、次の実施方針に基づきカリキュラムを編成する。

1. 心理的なサポート力や子どもの育ちを支援する実践力を育むための科目を置く。
2. 各学科の専門性を探究できる発展科目と、その基盤となる基本科目を置く。
3. 各学科の特性を生かしたキャリア形成のための科目群を置く。

(こども教育学科)

こどもへの深い理解と愛情を持ち、高い専門性を備えた小学校教諭、幼稚園教諭、保育士を育成するため、次の実施方針に基づきカリキュラムを編成する。

1. 小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格に関する科目を基盤としたうえで、学生の興味・関心に応じた発展的な科目を配置し、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士としての総合的な力を修得できる科目編成を行う。
2. 音楽を通してこどもの発達を支援する音楽療育士に関する科目編成を行う。
3. 応用科目として児童厚生2級指導員資格、認定ベビーシッター、幼稚園・保育園のた

めのリトミック指導資格1級・2級、マナー・プロトコール検定2級取得のための科目群を置く。

4. 児童教育、幼児教育、保育に生かすことができる児童文学・絵本に関する基礎的な科目群を置く。

(心理学科)

心理学に対する基本的な知識と技能を基盤に、現代社会の発展に貢献できる人材を育成するため、次の実施方針に基づきカリキュラムを編成する。

1. 「公認心理師専攻」には、幅広い心理的援助の現場において、人の心を癒し、支えるための専門的な知識や技術を身につけるための科目群を置く。
2. 「キャリア心理専攻」には、営業、販売、企画立案など一般企業での実務に役立つコミュニケーション力や思考力を身につけるための科目群を置く。
3. 「特別支援学校教員専攻」には、視覚や聴覚を含む様々な障がいのある児童・生徒を教育する際に必要な知識・技術・指導力を身につけるための科目群を置く。
4. 「アニマルセラピー専攻」には、動物を介在したコミュニケーションについて学び、医療・福祉や動物に関わるさまざまな領域で心理学を活かして働く際に必要な知識や技術を身につけるための科目群を置く。
5. 以上の科目に加え、教職関連科目、3・4年次の演習、4年次の卒業論文の科目を置く。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.baika.ac.jp/aboutus/education_policy/admission.html)

(概要)

梅花女子大学は、キリスト教精神に基づき、隣人を愛し他者を思いやることを備え、積極的に社会に貢献しようとする自立した女性の育成をめざしています。入学者受け入れにおいては、この建学の精神に理解を示し何事にも積極的に取り組むチャレンジ精神に溢れ、学位授与の方針に謳われた学修目標を実現し、社会に貢献しようとする意欲ある学生を求めています。入学者選抜の方針は以下のとおりです。

1. 多様な能力および個性をもった学生を受け入れ、互いに尊重し合い、互いに高め合う教育環境を通して、様々な社会分野で活躍、貢献できる女性を育むために複数の入学者選抜を実施します。
2. 入学者選抜方法には、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を設けます。
3. 上記の入学者選抜方法においては、学力試験の他、面接、小論文、高等学校における調査書および課外活動などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

心理こども学部では、人々の心理、人間関係、コミュニケーション、教育、言語、アニマルセラピー、障害児・者への支援（特別支援教育）、児童教育、幼児教育・保育、音楽療育、絵本等にわたる幅広い領域について研究し、教育が行われています。各学科の学びの基礎となる基本的な知識については、各学科のアドミッションポリシーに掲げられた教科で十分に学習しておいてください。

1. 心理こども学部では、基礎的な教養を身につけ主体的に学び、社会に貢献する意欲のある学生を求めています。
2. 各学科の学びの基礎となる教科だけではなく、その背景にある知識・教養を身につけるため関連する教科も十分に学習しておいてください。
3. 筆記試験においては、基礎知識と読解力、小論文では読解力と文章力、面接では高等学校までに積極的に行った学習やその他の課外活動について適切に表現する力を評価します。

(こども教育学科)

学科の特質にしたがって、次のような能力・意欲を持った学生を求め選抜を行います。

1. 本学科では、こどもに対する愛情を持ち、専門職としてこどもの育ちを支援できる力を身につけ、それを社会で役立てたいという意欲を持つ学生を求めています。
2. 児童教育、幼児教育・保育に関する学びには日本語の知識と理解力が必要となります。「国語」を十分に学んでおいてください。また、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士

として子どもと関わり教育や保育を行う立場になるためには、幅広い知識と能力が必要になります。国語以外の教科についてもしっかり学習しておいてください。

3. 筆記試験では、各試験科目の成績を高等学校までの勉学に対する積み重ねの結果として評価します。面接試験では、コミュニケーション能力と一般的な教養を有しているかどうかを評価します。また高等学校におけるクラブ活動や学校行事、学級運営への参画については責任感と実行力、協調性の面から評価します。

(心理学科)

学科の特質にしたがって、次のような能力・意欲を持った学生を求め選抜を行います。

1. 本学科では、日常の暮らしや人間関係に目を向け、子どもから大人まで広くひとの心や行動に興味をもち、主体的に学ぶ姿勢を備えた学生を求めています。
2. 授業では、コミュニケーション手段としてのことばへの理解や社会への開かれた感覚を必要とするので、「国語」や「英語」を十分に学習しておいてください。またしなやかに生きる力や感性、心身を豊かに育むことをめざすので一般教養としての数学・理科・公民・芸術その他の教科も幅広く学習しておくことが望ましいと考えています。
3. 高等学校までに身に付けた実践的なコミュニケーション能力や一般教養について、筆記試験や面接試験で評価します。

学部等名 食文化学部

教育研究上の目的

(公表方法：https://www.baika.ac.jp/assets/pdf/disclosure/gakusoku_women.pdf)

(概要)

梅花女子大学は、キリスト教精神に基づいて人格の形成に努め、教育基本法および学校教育法に従い、深く専門の学芸を教授研究するとともに、国際社会の発展と文化の向上に寄与する人間性豊かな女性を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：https://www.baika.ac.jp/aboutus/education_policy/diploma.html)

(概要)

梅花女子大学は、建学の精神および教学の理念に基づき、次に掲げる能力を有し、かつ各学部学科の学位授与方針に定める基準に達して所定の卒業要件を満たした者に、学士の学位を授与する。

1. キリスト教精神に基づき、隣人を愛し他者を思いやることを備え、社会の発展と文化の向上に貢献する力。
2. 多様な価値観を認めて、隣人とコミュニケーションを深め、連携・協働する力。
3. 専門的な知識・技能を修得するとともに、主体性や思考力、実践力などを身につけ、新たな課題を発見し解決する力。

食文化学部では、食の営みにおける様々な事象を分析・理解し、人間の食行動に対する総合的理解を通じて、人間生活の向上に寄与できる人材を育成するために、各学科が定めたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 各学科の専門知識を活かし、広く応用できる力。
2. 各学科の専門性を活かし、それぞれの方法で社会に貢献する力。
3. 各学科の基礎知識や専門知識を基に主体的に研究する力。

(食文化学科)

学科が定めたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. しっかりとした調理技術と理論を身につけ、食文化を総合的に理解できる力。
2. 食と健康に関する豊富な知識と問題意識を有し、文化・自然科学的知識に基づいて、素材の特徴を最大限に生かせる調理・加工ができる力。
3. 「食」の提供現場で必要とされる経営管理能力と企画し提案できる能力。

4. 日本の食文化に関する専門的知識を基盤に世界の食文化を理解し、日本の食文化の発展に結びつけ、寄与することができる力。

(管理栄養学科)

食の営みを通して、健康の維持・増進、疾病の予防・回復について栄養面から取り組み、実践できる管理栄養士となるため、学科の定めたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次に掲げる能力を有した者に、学士の学位を授与する。

1. 管理栄養士として必要な知識、技能を修得し、主体的に問題解決のできる能力。
2. 管理栄養士の立場を自覚し、多職種とコミュニケーションを図りながら連携、協働し、意欲的、創造的に活動できる能力。
3. 教養と思いやりのこころをもって人々と接し、食行動と栄養管理について総合的に理解するとともに実践力を身につけ、健康及び医療に対して寄与できる能力。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.baika.ac.jp/aboutus/education_policy/curriculum.html)

(概要)

梅花女子大学は、学位授与の方針に掲げる能力や資質を涵養するとともに、学生の能力を最大限に引き出し、自らの将来を切り拓く力を育成するために、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。

1. 幅広い視野と豊かな人間性を育み、知性と品性を備え、社会で活躍できる女性となるための基礎的な力を身につけることを目的として、「共通教育科目」にキリスト教科目、キャリア基礎科目、グローバルコミュニケーション科目、教養科目を置く。
2. 各学部学科の「専門教育科目」は、学生が専門的な知識や技能を修得するとともに、主体性や、思考力、実践力、課題発見・解決力などの育成を通して、学生が社会的に自立し活躍できる力を身につけることを目的として編成する。
3. より広い知識と教養を身につけるために、他学部他学科の科目や他大学の科目を履修することができ、さらにはグローバルな視野を養うために海外の協定大学での学習の機会を設ける。

食文化学部では、食の営みにおける様々な事象を分析・理解し、人間の食行動に対する総合的理解を通じて、人間生活の向上に寄与できる人材を育成するために、各学科において次の実施方針に基づきカリキュラムを編成する。

1. 社会に貢献できる人間の食行動に対する総合的理解につながる科目を置く。
2. 各学科の専門性を探求できる専門の科目と、その基盤となる基礎の科目を置く。
3. 人間生活向上に寄与・貢献するために必要な実践的技術・能力を習得する科目を置く。

(食文化学科)

食の基本としての調理に関する技術と理論を身につけ、食文化を総合的に理解できる人材を育成するため、次の実施方針に基づきカリキュラムを編成する。

1. 基本科目には、実際の調理・製菓に関する理論と技術に関わる教育課程で、「食」分野の学びの中核である「調理学」「栄養学」「食品学」などの学びと、実際の技術を身につけるための豊富な実習科目を置く。特に、実習科目は、「食」の現場に限らず、社会人として、全ての現場において必要とされる「チームワーク力」を養成する場として位置づける。
2. 発展科目には、食の安全、食ビジネス、食文化史などの内容で構成される科目群を置く。食の安全を厳守する心得を学ぶ科目、経営管理や商品企画などの食ビジネスに関する科目、国内外の食文化について考える科目など、多岐にわたる内容の科目を配置する。また、菓子製造技能士(洋菓子)を目指す科目、ならびに教員免許(家庭)取得に必要な科目を配置する。ここでは、さらに広範な食の教養的知識を有する人材を育成することを目指す。
3. 1年生では「食」に関する基礎知識と技術を、2・3年生で3つの系統から将来に向けた専門的知識を習得する。そして4年生では、「食」にまつわる研究テーマで、これま

での学習研究の成果を総括する。

(管理栄養学科)

栄養指導において、対象者一人ひとりの人生に寄り添い、それぞれに望ましい栄養状態と食生活の実現に向けて、人と食を尊重する栄養管理に携わる人材に必要とされる、健康の維持・増進、疾病の予防・回復に、食事および栄養面から貢献できる専門的知識と実践力を身につけるため、次の実施方針に基づきカリキュラムを編成する。

1. 専門基礎科目群、専門科目群から構成する教育科目を配置し、管理栄養士として必要な知識、技能を科学的根拠に基づいて体系的に学習し、主体的に学問を探究できるカリキュラムを編成する。
2. 管理栄養士に求められる知識、技能を社会と結びつけるため臨地実習を行い、実践力をつけるとともにキャリア形成に役立つカリキュラムを編成する。
3. 栄養に関する知識を統合的に理解して汎用能力をつけ、多職種間で連携、協働できる力を育くみ、管理栄養士としての自己認識が高まるカリキュラムを編成する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.baika.ac.jp/aboutus/education_policy/admission.html)

(概要)

梅花女子大学は、キリスト教精神に基づき、隣人を愛し他者を思いやることを備え、積極的に社会に貢献しようとする自立した女性の育成をめざしています。入学者受け入れにおいては、この建学の精神に理解を示し何事にも積極的に取り組むチャレンジ精神に溢れ、学位授与の方針に謳われた学修目標を実現し、社会に貢献しようとする意欲ある学生を求めています。入学者選抜の方針は以下のとおりです。

1. 多様な能力および個性をもった学生を受け入れ、互いに尊重し合い、互いに高め合う教育環境を通して、様々な社会分野で活躍、貢献できる女性を育むために複数の入学者選抜を実施します。
2. 入学者選抜方法には、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を設けます。
3. 上記の入学者選抜方法においては、学力試験の他、面接、小論文、高等学校における調査書および課外活動などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

食文化学部では、人間の食行動に対する総合的理解を食文化と位置付け、食の営みにおける様々な事象を分析・理解することを通じて人間生活の向上に寄与できる人材を育成する教育が行われています。そこで各学科では、この目的を理解し知識や技術の習得に積極的に取り組める次のような能力・意欲を持った学生を求め選抜を行います。

1. 食文化学部では、基礎的な教養を身につけ主体的に学び、社会に貢献する意欲のある学生を求めています。
2. 各学科の学びの基礎となる教科だけではなくその背景にある知識・教養を身につけるため、関連する教科も十分に学習しておいてください。
3. 筆記試験においては、基礎知識と読解力、小論文では読解力と文章力、面接では高等学校までに積極的に行った学習やその他の課外活動について適切に表現する力を評価します。

(食文化学科)

学科の特性にしたがって、次のような能力・意欲を持った学生を求め選抜を行います。

1. 本学科は、調理をはじめとして食の営みにおける様々な事象に興味を持ち、それを分析、理解、実践することを通じて食文化を総合的に理解し、人間生活の向上に貢献したいという意欲を持った学生を求めています。
2. 授業では、調理に関する知識や技術、食育、食の安全、食産業や食の歴史に関する知識や理解力を必要としますので、入学前から家庭、公民、地理・歴史、国語などの教科や基礎レベルの化学・生物などをしっかり学習しておくことが望ましいと考えています。
3. 筆記試験においては、各科目の理解度、小論文では読解力と文章力、面接では高等学校までに積極的に行った学習や活動、志望動機、コミュニケーション能力、学習意欲等

を総合して評価します。

(管理栄養学科)

学科の特性にしたがって、次のような能力・意欲を持った学生を求め選抜を行います。

1. 人々の生命維持および健康に大きく関わる栄養学を強い意志を持って学び、健康の増進、疾病の栄養管理と予防をめざし、食を通じた人々の健康支援に取り組みたい学生を求めています。
2. 地域およびグローバルな視点で自ら問題解決する能力、そして思いやりの心を重んじる豊かな人間性を高めたい学生を求めています。
3. 授業では、栄養の専門分野を主体的に学ぶため、基礎となる科目（生物、化学等）を学習、理解している学生を求めています。
4. 筆記試験においては、各科目の理解度、小論文では読解力と文章力、面接では高等学校までに積極的に行った学習や活動、志望動機、人間性、学習意欲等を総合して評価します。

学部等名 看護保健学部

教育研究上の目的

(公表方法：https://www.baika.ac.jp/assets/pdf/disclosure/gakusoku_women.pdf)

(概要)

梅花女子大学は、キリスト教精神に基づいて人格の形成に努め、教育基本法および学校教育法に従い、深く専門の学芸を教授研究するとともに、国際社会の発展と文化の向上に寄与する人間性豊かな女性を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：https://www.baika.ac.jp/aboutus/education_policy/diploma.html)

(概要)

梅花女子大学は、建学の精神および教学の理念に基づき、次に掲げる能力を有し、かつ各学部学科の学位授与方針に定める基準に達して所定の卒業要件を満たした者に、学士の学位を授与する。

1. キリスト教精神に基づき、隣人を愛し他者を思いやることを備え、社会の発展と文化の向上に貢献する力。
2. 多様な価値観を認めて、隣人とコミュニケーションを深め、連携・協働する力。
3. 専門的な知識・技能を修得するとともに、主体性や思考力、実践力などを身につけ、新たな課題を発見し解決する力。

看護保健学部では、すべての人びとの健康で幸福な生活に貢献するために、医療の専門職者に求められている高い倫理観を育むとともに、専門知識・技術を修得するために各学科が定めたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、人々の健康な生活の実現に貢献できる次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 医療者として人間の生命、尊厳と権利を尊重できる倫理観をもつ。
2. 専門的知識と技術を臨床において実践できる能力。
3. 自己の知識・技術の維持、向上に努め、専門分野の発展に貢献できる能力。

(看護学科)

看護学科では、所定の教育課程を修了し、次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 社会に貢献できる人に求められた教養と人間性、高い倫理観に基づく看護を実践する基礎的な力。
2. 人間関係を形成するためのコミュニケーションの基礎的な力。
3. 根拠に基づき臨床判断し、課題に対応ができる基礎的な力。
4. 地域で生活する人々の生涯を通じて、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復および、やさらかな死にかかわる看護を実践する基礎的な力。
5. 多職種チームにおける看護の役割を理解し、地域で生活する人々の課題解決に向けて連携・協働できる基礎的な力。

6. グローバルな視野をもち、多様な文化の理解を踏まえ国内外における看護の実践に必要な基礎的な力。
7. 看護学の発展に貢献しうる創造的・科学的探究心と生涯にわたる自己研鑽のための基礎的な力。

(口腔保健学科)

口腔保健学科では、共通教育科目から専門科目までを系統的に学び、単位を修得するとともに、次に示す5項目の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. キリスト教の愛の精神に基づき、生命の尊厳と他者への奉仕に貢献できる豊かで誠実な人間性。
2. 口腔保健学の専門的知識と実践能力を身につけ、主体的に問題を分析、解決する能力と口腔保健を通じて全身の健康支援が行える能力。
3. コミュニケーション能力を備え、医療・保健・福祉等の関連職種と連携し協働関係を構築できる社会性や協調性。
4. ヘルスプロモーションの理念を理解し、個人のみならず、地域医療に貢献でき、リーダーシップとヘルスマネジメント能力。
5. グローバル社会に対応できる行動力と、それを支える創造力と科学的探究心の基礎力。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.baika.ac.jp/aboutus/education_policy/curriculum.html)

(概要)

梅花女子大学は、学位授与の方針に掲げる能力や資質を涵養するとともに、学生の能力を最大限に引き出し、自らの将来を切り拓く力を育成するために、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。

1. 幅広い視野と豊かな人間性を育み、知性と品性を備え、社会で活躍できる女性となるための基礎的な力を身につけることを目的として、「共通教育科目」にキリスト教科目、キャリア基礎科目、グローバルコミュニケーション科目、教養科目を置く。
2. 各学部学科の「専門教育科目」は、学生が専門的な知識や技能を修得するとともに、主体性や、思考力、実践力、課題発見・解決力などの育成を通して、学生が社会的に自立し活躍できる力を身につけることを目的として編成する。
3. より広い知識と教養を身につけるために、他学部他学科の科目や他大学の科目を履修することができ、さらにはグローバルな視野を養うために海外の協定大学での学習の機会を設ける。

看護保健学部では、医療・保健における看護師と歯科衛生士の専門性を探求すると共に、各学科の教育目的を実現するために、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。

1. 社会に貢献できる女性に求められる教養と人間性・社会性を育む科目を置く。
2. 各学科の専門性を探求できる主専攻科目を置く。
3. 専門分野の発展に貢献するために必要な基礎的な能力を習得する科目を置く。

(看護学科)

本学科の教育目標を次の通り定める。

1. 社会に貢献できる人に求められた教養と人間性、高い倫理観に基づく看護を実践する基礎的な力を養う。
2. 人間関係を形成するためのコミュニケーションの基礎的な力を養う。
3. 根拠に基づき臨床判断し、課題に対応ができる基礎的な力を養う。
4. 地域で生活する人々の生涯を通じて、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復および、やすらかな死にかかわる看護を実践する基礎的な力を養う。
5. 多職種チームにおける看護の役割を理解し、地域で生活する人々の課題解決に向けて連携・協働できる基礎的な力を養う。
6. グローバルな視野をもち、多様な文化の理解を踏まえ国内外における看護の実践に必要な基礎的な力を養う。
7. 看護学の発展に貢献しうる創造的・科学的探究心と生涯にわたる自己研鑽のための基

礎的な力を養う。

この教育目標を実現するために、カリキュラムの編成・実施方針を以下のように定める。

1. 看護学科の主専攻科目は、基盤科目と専門科目から成り立っている。
2. 基盤科目は、看護の対象である「生活する人」を科学的知識にもとづき深く理解するための科目群である。「人間の心と行動」、「人体と環境」「人間社会と文化」の三分野に分けて科目を配置している。
3. 専門科目は、「基礎看護」「成人看護」「老年看護」「母性看護」「小児看護」「精神看護」「在宅看護」「公衆衛生看護」「看護の統合と実践」の9分野から成り立っている。知識・理論と基礎技術、人間のライフステージや状況から発展した専門科目について系統的に学んで行き、自立した看護専門職者の基礎的な実践能力を修得できるよう、講義・演習・臨地実習と段階を踏まえて構成している。特に臨地実習は多様な看護活動の場を計画している。

(口腔保健学科)

本学科の教育目標を次の通り定める。

1. 生命の尊厳と人間尊重を考え、高い倫理観を備えた豊かで誠実な人間性を養う。
2. 人間と社会・環境との相互作用で健康問題が生じるという、総合的かつ客観的にみる目を養う。
3. すべての人々が健康と幸せを享受し、その人らしく生きることを支援するために口腔保健学の専門知識と実践能力を修得する。
4. 医療・保健・福祉に関わる多様な専門職種の人と連携・協働関係を形成できる基本的な知識、技術とリーダーシップ、マネジメント力を養う。
5. 健康施策への関わり方、社会的ニーズの把握や問題の発見と解決能力を修得する。
6. グローバル社会に適応できる国際的な視野と行動力を養う。
7. 口腔保健学の発展に貢献しうる創造的・科学的探究心と生涯にわたる自己研鑽のための基礎能力を培う。

この教育目標をふまえて、ディプロマポリシーを実現するためにカリキュラムの編成・実施方針を以下のように定める。

1. 口腔保健の基礎では、医療専門職として専門的な基礎知識や人々の健康を総合的に支援するため、科学的思考力を養うことを目的に、専門基礎分野は人体の基礎と環境に分け科目編成を行う。
2. 口腔保健の専門分野では「歯科衛生過程」の概念を導入し、段階的に口腔保健専門職に必須の知識と技術の習得を図り、人々の健康の諸問題を発見、分析と評価することから、問題解決型の思考力と判断、実践・行動力を養うことを目的に科目を編成する。
3. 個人や地域社会を対象とする保健・医療・福祉の分野で、臨床・臨地実習を行い、多職種連携のもとで主体的に口腔保健学を実践する能力が習得できるよう計画している。
4. 論文の読み方と書き方から、論理的思考と研究姿勢、発表の基本を習得するとともに、最新の知見に触れることで、グローバルな視野を培うことを目的に口腔保健研究演習を設ける。
5. 口腔保健・歯科医学領域以外にも興味、関心をもって他学部学科の科目も履修し、自ら幅広い教養と豊かな人間性の涵養に取り組むことを評価する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.baika.ac.jp/aboutus/education_policy/admission.html)

(概要)

梅花女子大学は、キリスト教精神に基づき、隣人を愛し他者を思いやることを備え、積極的に社会に貢献しようとする自立した女性の育成をめざしています。入学受け入れにおいては、この建学の精神に理解を示し何事にも積極的に取り組むチャレンジ精神に溢れ、学位授与の方針に謳われた学修目標を実現し、社会に貢献しようとする意欲ある学生を求めています。入学選抜の方針は以下のとおりです。

1. 多様な能力および個性をもった学生を受け入れ、互いに尊重し合い、互いに高め合う教育環境を通して、様々な社会分野で活躍、貢献できる女性を育むために複数の入学選抜を実施します。

2. 入学者選抜方法には、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を設けます。
3. 上記の入学者選抜方法においては、学力試験の他、面接、小論文、高等学校における調査書および課外活動などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

看護保健学部では、看護師または保健師、歯科衛生士、養護教諭などの資格を取得するための教育が行われ、授業には講義と技術演習、病院やクリニックなどの施設実習があります。これら教育内容に関心があり、医療・保健に関わる者または教育者として社会に貢献したいと考え、主体的に学び努力を継続できる学生を求めています。

(看護学科)

看護学科では、生活する人を対象とし科学的根拠を活用して、慈愛の心をもち看護を実践することができる看護専門職者の育成をめざしています。この目的を理解し知識や技術の習得に積極的に取り組める次のような学生を求めています。

1. 人の健康や人の営みに関心のある人。
2. 人の気持ちや立場を理解し、思いやりをもってかかわることができる人。
3. 探究心をもち、自主的・主体的に学ぶために必要な基礎学力を備えた人。
4. 看護学を学びたいという意志がある人。
5. 人と連携・協力できる人。
6. 看護職者として社会に貢献したい人。

高等学校では、すべての教科が入学後の学習の基盤となるため、特定の科目に偏ることなく幅広い基礎学力が身につくように学習に取り組んでください。また、課外活動や友人との交流を通して社会性や人間関係を築く力、豊かな感性を培ってください。

入学者の選抜においては、学習やコミュニケーションに必要な語学力と主専攻科目を理解するために重要となる数学または理科の基礎学力をはかる学科試験を行っています。また社会人入試においては、看護に対する志向性や入学後の学習意欲を問う小論文や面接試験を課しています。

(口腔保健学科)

口腔保健学科では、キリスト教の愛の精神に基づき、豊かな教養と人間性を備え保健・医療・福祉の立場から人々の健康と豊かな生活実現のため、広く社会に貢献しようとする自立した女性の育成をめざしています。入学者受け入れにおいては、この目的に理解を示し専門的知識と技術の習得に積極的に取り組み、学位授与の方針に謳われた学修目標が達成できるよう努力する意欲ある学生を求めています。高等学校で学んでおくべき科目および入学者選抜方法は以下のとおりです。

1. 高等学校で履修すべき科目

口腔保健学科での学びは、高等学校で学習するすべての教科の学力を幅広く身につけておくことが基礎となります。得意科目を大切に活用しながらも幅広くそれ以外の科目にも取り組んでください。なかでも生物などの理科科目や国際的視野で最先端の医療や生命科学を学ぶには英語力は重要です。また、人の話を聴く態度やコミュニケーション力、豊かな人間性を身につけるよう心掛けてください。

2. 入学者選抜の方法

入学者の選抜にあたっては、基礎学力だけではなく意欲や多様な個性と能力を評価するため一般選抜、学校推薦型選抜および総合型選抜、また社会人や帰国生などを対象とした入学試験を設け、多元的評価と複数の受験機会において個々の力が発揮できるような選抜方法を実施します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.baika.ac.jp/aboutus/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
文化表現学部	—	17人	7人	1人	1人	人	26人
心理こども学部	—	19人	11人	2人	人	人	32人
食文化学部	—	13人	6人	人	人	6人	25人
看護保健学部	—	10人	12人	9人	9人	人	40人
その他	—	人	人	1人	人	人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			115人				115人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://bccs.baika.ac.jp/reference/teacherdata					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文化表現学部	125人	112人	89.6%	480人	499人	104.0%	若干名	0人
看護保健部	160人	139人	86.9%	640人	634人	99.1%		0人
心理こども部	110人	89人	80.3%	460人	444人	96.5%	若干名	0人
食文化学部	100人	67人	67.0%	400人	316人	79.0%	若干名	0人
合計	495人	407人	82.2%	1980人	1893人	95.6%	若干名	0人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文化表現学部	122人 (100%)	1人 (0.8%)	108人 (88.5%)	13人 (10.7%)
看護保健学部	146人 (100%)	2人 (1.4%)	140人 (95.9%)	4人 (2.7%)
心理こども学部	149人 (100%)	9人 (6.0%)	136人 (91.3%)	4人 (2.7%)

食文化学部	90人 (100%)	1人 (1.1%)	87人 (96.7%)	2人 (2.2%)
合計	507人 (100%)	13人 (2.6%)	471人 (92.9%)	23人 (4.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要) (授業計画の作成・公表に係る取組の概要) シラバスの作成・公表過程は以下の通り。 (11月中旬) 各教員へシラバス作成について依頼。 (12月初旬～1月初旬) シラバス入稿期間。 (1月中旬～) シラバス確認を各学科長により実施。 (2月初旬) シラバス確認 (2回目) (3月下旬) シラバスを Web (大学 HP・学内向けポータルサイト https://www.baika.ac.jp/disclosure/syllabus/) にて公表。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 試験等による成績の評価は、秀、優、良、可、不可をもって表し、秀、優、良、可を合格とする。卒業については、本学に4年以上在学し、教育課程に定める授業科目を履修して、その単位を修得し、卒業要件を満たした者には、卒業の資格を認めて卒業証書を与える。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文化表現学部	国際英語学科	124 単位	有・無	単位
	日本文化学科	124 単位	有・無	単位
	情報メディア学科	124 単位	有・無	単位
心理こども学部	こども教育学科	124 単位	有・無	単位
	心理学科	124 単位	有・無	単位
食文化学部	食文化学科	124 単位	有・無	単位
	管理栄養学科	124 単位	有・無	単位
看護保健学部	看護学科	126 単位	有・無	単位
	口腔保健学科	124 単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		

学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：
----------------------------	-------

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.baika.ac.jp/aboutus/campus/>
<https://www.baika.ac.jp/aboutus/facilities/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

2024 年度入学生(1 年次)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文化表現学部	国際英語学科	750,000 円	250,000 円	499,010 円	
	日本文化学科	750,000 円	250,000 円	489,010 円	
	情報メディア学科	750,000 円	250,000 円	529,010 円	
心理こども学部	こども教育学科	750,000 円	250,000 円	489,010 円	
	心理学科	750,000 円	250,000 円	489,010 円	
食文化学部	食文化学科	750,000 円	250,000 円	569,010 円	
	管理栄養学科	750,000 円	250,000 円	629,010 円	
看護保健学部	看護学科	800,000 円	250,000 円	902,150 円	
	口腔保健学科	750,000 円	250,000 円	632,150 円	

2023 年度入学生(2 年次)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文化表現学部	国際英語学科	880,000 円	0 円	490,000 円	
	日本文化学科	880,000 円	0 円	480,000 円	
	情報メディア学科	880,000 円	0 円	520,000 円	
心理こども学部	こども教育学科	880,000 円	0 円	480,000 円	
	心理学科	880,000 円	0 円	480,000 円	
食文化学部	食文化学科	880,000 円	0 円	560,000 円	
	管理栄養学科	880,000 円	0 円	620,000 円	
看護保健学部	看護学科	900,000 円	0 円	894,500 円	
	口腔保健学科	880,000 円	0 円	624,500 円	

2022 年度入学生(3 年次)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文化表現学部	国際英語学科	880,000 円	0 円	490,000 円	
	日本文化学科	880,000 円	0 円	480,000 円	
	情報メディア学科	880,000 円	0 円	520,000 円	
心理こども学部	こども教育学科	880,000 円	0 円	480,000 円	
	心理学科	880,000 円	0 円	480,000 円	
食文化学部	食文化学科	880,000 円	0 円	560,000 円	
	管理栄養学科	880,000 円	0 円	620,000 円	
看護保健学部	看護学科	900,000 円	0 円	894,500 円	
	口腔保健学科	880,000 円	0 円	624,500 円	

2021 年度入学生(4 年次)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文化表現学部	国際英語学科	880,000 円	0 円	490,000 円	

	日本文化学科	880,000 円	0 円	460,000 円	
	情報メディア学科	880,000 円	0 円	520,000 円	
心理こども学部	こども教育学科	880,000 円	0 円	480,000 円	
	心理学科	880,000 円	0 円	480,000 円	
食文化学部	食文化学科	880,000 円	0 円	560,000 円	
	管理栄養学科	880,000 円	0 円	620,000 円	
看護保健学部	看護学科	900,000 円	0 円	894,500 円	
	口腔保健学科	880,000 円	0 円	624,500 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

学生と教職員との交流を大切にしながら、大学時代に学生としての知識を身に付けることができるように、相談に応じて学生生活の全般をサポートする様々な取り組みを行っている。

●学生サービスセンター

学生生活の全般をサポートし、快適なキャンパスライフを応援。科目の履修、奨学金、学生寮・下宿、悩み事など、学業と生活に関する様々な相談を受け付ける。

●学生相談室

学生の悩みや困りごと、心理的問題をカウンセラーが丁寧に聴き、共に考え、援助する。秘密厳守の為、安心して利用可能。性格検査、職業興味調査、サンドプレイ（箱庭療法）なども実施している。

●コミュニティルーム

全ての学科にコミュニティルームを設け、その学科で学んでいる学生、担当の教員なら誰でも自由に使用できる「談話空間」としている。授業中にはできない教員への質問や相談、学生間の活発な情報交換も行われている。

●クラスアドバイザー制度

大学生活でのちょっとした悩みや困り事に、専任教員がアドバイザーとして相談に応じる。

●ボランティアルーム

ボランティアを必要とする人と、ボランティアに関心がある人をつなげる拠点としてボランティアルームを設置。ボランティア活動に関する説明会や講習会も実施しており、一定の知識、技術を学んだ上でボランティア活動に参加することが可能。

●スクールバス「エレガンスエクスプレス」

授業時間に合わせたダイヤで、本学専用のバスが茨木エレガンスキャンパスまでダイレクトに運行している。

●奨学金

学生の経済的負担を少しでも軽減し学生生活が充実したものになるように、各種奨学金を設けている。

- ・澤山奨学金：修学の熱意があるにもかかわらず経済的理由により修学困難な者（2年生以上で過年度生を除く）への給付奨学金
- ・特別奨学金：入学後、罹災、家計支援者の死亡その他突発な理由により家庭の経済事情が急変し修学が著しく困難となった者への給付奨学金

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

キャリア支援は就職部の専門相談員が中心となり指導・相談を実施。教育課程内外の取り組みと合わせ、1年次から4年次まで連続でサポートすることに加え、保護者へのサポートも行うなど、強固な支援体制を確立している。

●就活クラス

3年生になると学科ごとに経験豊かな就職相談員がクラス担任となる「就活クラス」が編成され、個人面談を中心に就職活動の初歩から実際の就職活動、採用に至るまで実践的なサポートを実施。このクラスは4年生になっても採用が決まるまで継続される。3、4年生で構成される「就活クラス」は、4年生の内定者が参加する3年生対象の懇談会を行うなど、直接先輩からリアルなアドバイスを受けられるほか、相談にのってもらえ、最新の情報を取り入れる場として活用されている。

●就活ゼミ

梅花女子大学独自の就職教育プログラムとして、3年生に週1回、年間約30回の「就活ゼミ」を実施。就職活動を行うに当たっての心構えや就職活動の進め方、就職活動時のマナー、企業研究の方法、求人票の見方、筆記試験対策、一般常識テスト対策、面接・グループディスカッション対策、内定先輩懇談会など盛りだくさんのプログラムを用意。また、随時希望学生を対象に、自己分析、仕事探しのポイント、履歴書・エントリーシートの書き方などをテーマに少人数での「ワークショップ」を開催し、学生の就職活動に対する不安や疑問などにも対応。

●個人面談

就職相談員による「個人面談」を中心に、学生の適性にあわせたサポートを実施。「就活ゼミ」のプログラムで実施されるSPI模擬試験・一般常識模擬試験の結果なども活用しながら、就職先とのベストマッチをめざして個人面談を実施し、「なりたい自分」を実現するため親身にサポート。

●情報提供

就職支援システム「梅花ナビ」を利用することで、求人情報、インターンシップ情報、ガイダンス情報の確認することができる。また、卒業生の就職実績企業のより詳しい情報や採用試験報告書なども閲覧可能。企業側から申し込まれる求人以外にも積極的に求人開拓を行っており、採用の可能性の高い求人情報を蓄積し、情報提供を実施。他にも、学外公的機関（ハローワークほか）や大手就職サイトの利用もサポート。

●学外インターンシップ

将来の就職に備えて、在学中に職業体験を行うインターンシップの支援を実施。この就業体験を通じて職場や仕事に対する理解を深め、確かな職業観や働く意欲を身につけることで、より「なりたい自分」が明確になり、有意義な就職活動、就職へとつなげるのが目的。

●学内企業説明会・採用選考会・求人マッチングイベント

学内企業説明会は、さまざまな分野で実績を伸ばしている優良企業との接点を持たせる。実際に話を直接聞くことで、仕事に関する視野を広げ、より具体的な就職活動へと繋げる。説明会や選考会は年間を通じて随時開催することで、最新の情報収集を行うことができ、採用の可能性を高める。求人マッチングイベントでは、学外の専門キャリアカウンセラーと就活についての相談ができ、実際に選考受験が可能な企業の紹介をする。

●就職支援プログラム

複雑かつ多様化した企業の選考方法に対して、SPI試験、一般常識テスト、エントリーシートの書き方、面接、グループディスカッションなど実践的な対策や、各業界の理解を深める

ための業界セミナーなどを実施。また、希望進路実現を目指した3年生向けの集中特訓講座「就活チャレンジ講座梅花組」や2年生向けの「就活チャレンジ講座小梅組」も開講。就職指導の専門家からの的確なアドバイスのもと、目標達成をめざす。

●進学サポート

より深く学びたい、新しい分野にチャレンジしたいなど、学びたい意欲を持った学生の進路を支援。就職部にて、企業情報以外にも大学院や編入学、専門学校などへの進学についても、個別で相談に応じる。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の心身の健康等に係る支援として保健室、学生相談室、ボランティアルームを開設している。

●保健室

看護師2名を配置し日々の学生の疾病や怪我の対応を行うほか、学生集団健診や実習に伴う抗体検査を実施し、その後のフォローも行っている。

●学生相談室

臨床心理士資格を有するカウンセラー5名と専門知識を有する受付員複数名を配置し、さまざまな学生の心理的問題の支援を行っている。

●ボランティアルーム

職員1名を配置。学生ボランティアスタッフをマネジメントし聴覚障害者等の要支援者の支援を行っている。

●障害学生支援制度

全学的に障害者等の支援のための制度。各学科に2名の障害者コーディネーターを配置し、障害者コーディネート委員会を中心に障害等のある学生をサポートしている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：(本学ホームページにて公表)

○教育活動関連

- ①教育・研究支援センターのページにおいて、「授業アンケート結果」、「学修状況調査結果」、「卒業生アンケート結果」を掲載。

https://www.baika.ac.jp/aboutus/library/education_support.html

○研究活動関連

- ①大学紹介のページにおいて、「教員データベース」・「学術データベース」を掲載。

<https://bccs.baika.ac.jp/reference/teacherdata>

<https://bccs.baika.ac.jp/reference/academicdata>

- ②梅花女子大学 機関リポジトリの中で、「紀要」、「博士論文」、「教職研究」、「梅花児童文学」を掲載。<https://baika.repo.nii.ac.jp/>

- ③大学紹介のページにおいて、「梅花学園研究助成一覧」、「梅花女子大学研究紀要」を掲載。https://www.baika.ac.jp/aboutus/research_activity/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F127310108143
学校名 (〇〇大学 等)	梅花女子大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 梅花学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		317人	309人	330人
内訳	第Ⅰ区分	200人	196人	
	第Ⅱ区分	75人	82人	
	第Ⅲ区分	42人	31人	
	第Ⅳ区分	人	人	
家計急変による支援対象者 (年間)				一人
合計 (年間)				332人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	一人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	一人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	17人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	17人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。